

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	The risk of developing subsequent nonmelanoma skin cancers	
	論文の日本語タイトル	メラノーマ以外の 2 次性皮膚癌の発生するリスクについて	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ19-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	11209121	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	23	
	号	6	
	ページ	1114-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1990	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Schreiber MM	Arizona Cancer Center, Department of Family and Medicine, and Department of Internal Medicine, University of Arizona College of Medicine
	その他著者 1	Moon TE	
	その他著者 2	Fox SH	
	その他著者 3	BSN	
	その他著者 4	Jonelle Davidson	
	その他著者 5	T	
	その他著者 6	Elie Levy	
	その他著者 7	Vossaert KA	
	その他著者 8	Sandhya Yadav	
	その他著者 9	Michelle Abadir	
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	メラノーマ以外の 2 次性皮膚癌の発生するリスクについて	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	1985 年に非メラノーマ (BCC, SCC) を発症した患者を追跡し、1988 年に新たに皮膚癌を発症した患者を対象とした。	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	BCC の初回発生	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	BCC の二次発生	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	Non-melanoma skin cancer(NMSC)を切除して、1 年以内に別の NMSC が発生する頻度は、1 個のみ新たに発生したケースが 36.39%、2 個が 16.15%、3 個以上が 8.61%であった。1 年以内に全体として 1 個が 72.80%、2 個が 53.69%、3 個以上が 44.44%であった。1 年を過ぎるとその頻度は徐々に低下する。さらにこれは腫瘍の種類によっても異なり、SCC なら 1 年以内に 100%に近く、BCC は 44.23~83.65%の範囲であった。	
	結論	BCC の既往がある患者では、次の新たな BCC が発生する頻度が高く長期間のフォローアップが必要である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 多数症例の追跡調査であり、東洋人の実際の頻度と比較してもかなりの高値である。	